



令和7年7月2日(水)発行

# 所長訪問より ~不祥事根絶に向けた対話~

6月から所長訪問をさせていただきました。お忙しい中での御対応に感謝申し上げます。

さて、今年度の所長訪問では、管理職との懇談だけではなく、新たに教職員の皆様と「不祥事根絶に向けた対話」の時間を設けさせていただきました。各校 I 5分程度でしたが、貴重な話し合いの時間となり、不祥事根絶に向けての意識付けを図るとともに、新たな視点も見いだすことができました。

以下は、今回の貴重な御意見をテキストマイニングを使い、キーワードを可視化したものです。

向ける 様々な 正しい 丁寧な 大丈夫な 業者 捉える 預かる 指導 振り返る 新聞 かける マニュアル 悪い ぃぃ 諭す 教員 通帳 厳しい 狭い 危険な 短い つながる 適切な 生まれる 指示 越える 慣れる 取り扱う 複数 迷惑な 書類 抜ける 確実な ぶつける 伝える 通らない うまい 必要な

上記のキーワードから、「公金」に関わる内容が多く出てきたことが分かります。各町村教育委員会が作成した「公金の取扱に関するマニュアル」をもとに、「現金の取扱では管理職に伝え、複数でチェックする体制を整えた」、「会計監査の方法を見直した」などの声も聞かれました。

また、「児童生徒との距離感」や「言葉づかい」など、生徒指導に関する内容も多く出てきました。 話し合う中で、「子供たちに対しても人権意識をもつ」といった教職員として大切な心構えを確認することができました。

交通違反等に関しては、「信号のない横断歩道で渡ろうとしてる人や脇道から出てくる車に対し、 一時停止できることが本当の余裕をもった運転であると肝に銘じ、実践している」といった話もありました。

裏面には、特に印象に残った言葉を載せましたので、今後の参考にしていただければ幸いです。

## 教員としての考えを広げる

「こうしなければならない」という思いが強くなってしまいがちなのが教員。だから、子供に対し必要以上に厳しく指導してしまうことがあったので反省している。

#### 速度超過・交通安全

気を抜くと、制限速度を簡単に超 えてしまうことがある。後続車が迫 ってきた時は、車を停止させて道を 譲るようにしている。

# 考え方の甘さ

「このくらいなら、まあ、 大丈夫だろう」という甘い 考えの継続・積み重ねが大 きな不祥事につながってい ると感じる。

#### ストレス発散

先生方は休日も学校や子供 たちのことを考えている。だ から、趣味や楽しみなことに 没頭するなど、プライベート と仕事の区別をつけながら、 ストレスを発散する時間を るつくりのも大切である。



## アンガーマネジメント

今回の対話を通して、自分は一度で指示が通らない場面でカッとしてしまうことがあると認識することができた。

# 事後対応の重要性

自動車事故など、いくら注意していて も起こしてしまうことがある。起こして しまった時とその後の対応のシュミレー ションを行う研修もするべき。だから、事 後の対応に苦慮したり、隠蔽したりする ようになってしまうのだと思う。

# 人権意識と生徒指導

少人数で普段から子供の様子がよく分かる環境にいる。だからこそ、子供への生徒指導をする際は、一方的な先入観をもたず、誰にでも公平に対応するようにしている。人権意識をもって、子供が納得するような指導を心がけたい。

今回の対話を通して感じたことは、「それぞれのもつ感覚や認識に若干のズレがある」ということです。そのズレから、**自分が今もっている感覚や認識を見つめ直し、今まで気付くことのできなかった自分の課題に向き合う**ことができました。

ぜひ、職員室などにおける<u>普段からの対話(雑談)</u>を大切にし、困っていたり悩んでいたりする 教職員がいたら助け合い、おかしいと感じたことは指摘し合える素敵な職場をつくっていきましょう。そのような組織の中で実感する同僚や子供たち、保護者、地域から支えられているという「感謝の気持ち」をもつことが、チーム学校の礎となるだけでなく、不祥事根絶につながる大切な意識・視点なのだと改めて学ぶことができました。

